

タイトル「2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院危機管理学研究科」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	国際人道支援実務特講		
担当教員	吉富 望		
対象学年	2年	開講学期	前期
曜日・時限	金 4		
講義室	1311	単位区分	選,選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	講義・発展		
科目の位置付け(開発能力)	<p>■DPコード・学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1(意欲・経験・適性)災害,テロ,国際紛争等,複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察:40%</p> <p>DP2(学識・専門技能)災害,テロ,国際紛争等,複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための,法学,政治学,国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能:30%</p> <p>DP3(思考力・判断力・表現力)客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力:30%</p>		
教員の実務経験	<p>■経験した実務の内容</p> <p>陸上自衛隊に32年間勤務し、この間、第一線部隊において部隊運用に関わる実務に約11年間従事しました。また、内閣官房内閣情報調査室、防衛省防衛局、防衛省情報本部、陸上幕僚監部といった中央機関で防衛力整備、部隊運用、戦略情報に関わる実務に約11年間従事しました。加えて、防衛大学校、陸上自衛隊研究本部、陸上自衛隊小平学校などで教育及び研究開発の実務に約10年間従事しました。</p> <p>■実務経験をどのように活かした授業にするか</p> <p>本演習では、基本的に教科書を用いて日本の国際平和協力活動の変遷に関する学識・専門技能の習得を図りますが、教科書に書かれていない国際平和協力の現場の状況について実務経験に基づいて教育します。このことで、生きた学識・専門技能を習得するとともに、日本の国際平和協力活動の変遷を正確に把握し、これに関する情報を適切に理解する力を高めます。【第2～15回】</p>		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	<p>危機管理学の実践的な側面を学修するため、本講では、主に政府、中央官庁等が作成する検証報告書を下敷きに、担当者の実務経験を踏まえながら、政府、中央官庁等の直面する大規模災害に際しての対応、諸外国への災害救援活動、PKO等の国際協力活動等の具体的なケーススタディを通して、危機発生時の対応内容、意思決定の過程を検討する。政府、中央官庁等の行政機関における危機管理のフォーマル・インフォーマルな制度、手法、行動心理等の機能や危機管理サイクル、危機管理に影響を及ぼす要素等について実践的に学修します。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とします。授業形態は演習により行います。なお、授業概要の一部を補充するため、あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード 安全保障、国際平和協力、自衛隊</p>		
授業の趣旨	<p>■副題</p> <p>日本の国際平和協力活動の変遷を学び、世界の平和と安定によって日本の危機管理に寄与することの重要性を理解する国際的な危機管理パーソンになりましょう。</p> <p>■授業の目的</p> <p>生存と繁栄に不可欠の資源や食料の大部分を外国に依存し、経済的利益の大部分を貿易によって得ている日本にとって、世界の平和と安定は日本の危機管理にとって死活的に重要です。しかし、日本社会では平和協力活動に関する偏見や誤った認識も多く、世界が求めている平和と安定のための活動と日本の国際平和協力活動との間には大きなギャップが生じています。本演習では日本の国際平和協力活動の変遷を丁寧に学び、現実にも即した議論ができる素地を養います。</p> <p>■授業のポイント</p> <p>日本の本格的な国際平和協力活動の出発点は、1992年のカンボジアでの国連PKOへの自衛隊部隊の派遣です。この派遣に向けて日本政府はPKO派遣五原則を策定しましたが、この五原則は、国家再建を目的とする当時の国連PKOの実情に概ね合致しており、国際平和協力活動における自衛隊の有効活用を促進剤となりました。しかし、最近の国連PKOは、内戦やテロ組織による攻撃から民間人を武力を用いてでも保護することに重点がシフトしています。1992年当時のままのPKO派遣五原則を維持しては、自衛隊がこうした最近の国連PKOに参加することは不可能です。また、自衛隊以外による日本の国際平和協力活動も、テロなどに対して安全を確保することが難しくなっており、低調な状況です。こうして、日本による世界の平和と安定への寄与度は低下を続けています。果たして、このままでもいいのでしょうか。</p> <p>多くの国民は日本が世界の平和と安定に協力することの重要性を忘れ、国際平和協力活動に対する無関心や偏見が蔓延するに至っています。このことは、世界の平和と安定に自らの生存と繁栄を依存している日本にとって由々しき事態と認識する必要があります。本特講では日本の国際平和協力活動の変遷を学んで、観念論や偏見を排した考察を行う素地を養います。</p>		
総合到達目標	<p>■一般総合目標 (GIO)</p> <p>日本の国際平和協力活動に関する学識・専門技能を身につけるために、1992年のカンボジアPKO派遣以降の変遷を理解する。また、論理的思考力を高めるために、日本の国際平和協力活動に関する多角的な分析力を養う。</p> <p>■個別行動目標 (SBOs)</p> <p>SBO1 日本の国際平和協力活動の変遷を説明できる。(第2～3回、第6～13回)</p> <p>SBO2 今後の日本の国際平和協力活動のあり方について意見を述べるができる。(第14回)</p> <p>SBO3 日本の国際平和協力活動に関係する国内外の情勢について説明できる。(第2～14回)</p>		
成績評価方法	<p>■教科書レポート×12回(60%) : 対応コンピテンス DP1, DP2, DP3 (評価の観点)教科書の該当する章の内容全般を正しく把握し、その中で特に重要な部分を指摘できるとともに、教科書の内容で疑問のある部分を見出せるかを問います。(A4用紙1枚以内)</p>		

	<p>(フィードバックの方法) その場で教員がコメントします。</p> <p>■発表×1回(30%) : : 対応コンピテンス DP1, DP2, DP3 (評価の観点) 根拠と論理に基づいた説得力とオリジナリティのある発表かを問います。(A4用紙2枚以内)</p> <p>(フィードバックの方法) その場で教員がコメントします。</p> <p>■授業参加度(発言等)×14回(10%) : 対応コンピテンス DP1, DP2, DP3 (評価の観点) 質問やコメントを積極的に発しているかを問います。</p> <p>(フィードバックの方法) その場で教員がコメントします。</p>														
履修条件	なし														
履修上の注意点	国際化した日本社会で活動する危機管理パーソンとして、国際平和協力活動について適切に説明できる見識を持っていることは不可欠です。日本では学ぶ機会の少ない国際平和協力活動を基礎から学んで、真の危機管理パーソンを目指しましょう。														
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、日本の国際平和協力活動の現状について説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) 担当教員の実務経験を踏まえて、日本の国際平和協力活動の現状について解説します。 ③予習(120分) シラバスを読み、日本の国際平和協力活動について調べてみる。 ④復習(120分) 授業の内容を再確認する。 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> ① 授業テーマ 国際平和協力の見取り図 ② 授業概要 ・ 教科書レポートの発表 教科書序章「国際平和協力の見取り図」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書序章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。 </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> ① 授業テーマ 国際平和活動の歴史と変遷 ② 授業概要 ・ 教科書レポートの発表 教科書第1章「国際平和活動の歴史と変遷」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第1章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。 </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> ① 授業テーマ 国際平和活動をめぐる概念の展開 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第2章「国際平和活動をめぐる概念の展開」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第2章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。 </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> ① 授業テーマ 日本の国際平和協力政策の起源と展開 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第3章「日本の国際平和協力政策の起源と展開」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第3章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。 </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td> ① 授業テーマ 日本の国際平和協力の現状と課題 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第4章「日本の国際平和協力の現状と課題」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第4章を読んでレポートを作成する。(A41枚) </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、日本の国際平和協力活動の現状について説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) 担当教員の実務経験を踏まえて、日本の国際平和協力活動の現状について解説します。 ③予習(120分) シラバスを読み、日本の国際平和協力活動について調べてみる。 ④復習(120分) 授業の内容を再確認する。	2	① 授業テーマ 国際平和協力の見取り図 ② 授業概要 ・ 教科書レポートの発表 教科書序章「国際平和協力の見取り図」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書序章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。	3	① 授業テーマ 国際平和活動の歴史と変遷 ② 授業概要 ・ 教科書レポートの発表 教科書第1章「国際平和活動の歴史と変遷」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第1章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。	4	① 授業テーマ 国際平和活動をめぐる概念の展開 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第2章「国際平和活動をめぐる概念の展開」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第2章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。	5	① 授業テーマ 日本の国際平和協力政策の起源と展開 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第3章「日本の国際平和協力政策の起源と展開」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第3章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。	6	① 授業テーマ 日本の国際平和協力の現状と課題 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第4章「日本の国際平和協力の現状と課題」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第4章を読んでレポートを作成する。(A41枚)
回	内容														
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 講義のテーマや内容、スケジュール、評価方法について説明できるようになる。また、日本の国際平和協力活動の現状について説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) 担当教員の実務経験を踏まえて、日本の国際平和協力活動の現状について解説します。 ③予習(120分) シラバスを読み、日本の国際平和協力活動について調べてみる。 ④復習(120分) 授業の内容を再確認する。														
2	① 授業テーマ 国際平和協力の見取り図 ② 授業概要 ・ 教科書レポートの発表 教科書序章「国際平和協力の見取り図」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書序章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。														
3	① 授業テーマ 国際平和活動の歴史と変遷 ② 授業概要 ・ 教科書レポートの発表 教科書第1章「国際平和活動の歴史と変遷」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第1章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。														
4	① 授業テーマ 国際平和活動をめぐる概念の展開 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第2章「国際平和活動をめぐる概念の展開」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第2章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。														
5	① 授業テーマ 日本の国際平和協力政策の起源と展開 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第3章「日本の国際平和協力政策の起源と展開」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第3章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習(120分) 授業の内容を再確認する。														
6	① 授業テーマ 日本の国際平和協力の現状と課題 ② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第4章「日本の国際平和協力の現状と課題」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習(120分) 教科書第4章を読んでレポートを作成する。(A41枚)														

	<p>④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。</p>
7	<p>① 授業テーマ カンボジア：「統合化」に向けた前哨戦</p> <p>② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第5章「カンボジア：「統合化」に向けた前哨戦」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③ 予習 (120分) 教科書第5章を読んでレポートを作成する。(A41枚)</p> <p>④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。</p>
8	<p>① 授業テーマ 東ティモール：「統合化」への適応と「積極化」への課題</p> <p>② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第6章「東ティモール：「統合化」への適応と「積極化」への課題」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③ 予習 (120分) 教科書第6章を読んでレポートを作成する。(A41枚)</p> <p>④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。</p>
9	<p>① 授業テーマ インド洋(アフガニスタン)：湾岸戦争の教訓と米国への貢献</p> <p>② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第7章「インド洋(アフガニスタン)：湾岸戦争の教訓と米国への貢献」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③ 予習 (120分) 教科書第7章を読んでレポートを作成する。(A41枚)</p> <p>④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。</p>
10	<p>① 授業テーマ イラク：進んだ「統合化」と迷走した「積極化」</p> <p>② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第8章「イラク：進んだ「統合化」と迷走した「積極化」」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③ 予習 (120分) 教科書第8章を読んでレポートを作成する。(A41枚)</p> <p>④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。</p>
11	<p>① 授業テーマ ハイチ：地震災害救援から国連PKOへの切れ目のない支援</p> <p>② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第9章「ハイチ：地震災害救援から国連PKOへの切れ目のない支援」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③ 予習 (120分) 教科書第9章を読んでレポートを作成する。(A41枚)</p> <p>④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。</p>
12	<p>① 授業テーマ 南スーダン：自衛隊に「文民の保護」はできるのか</p> <p>② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書第10章「南スーダン：自衛隊に「文民の保護」はできるのか」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。</p> <p>③ 予習 (120分) 教科書第10章を読んでレポートを作成する。(A41枚)</p> <p>④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。</p>
13	<p>① 授業テーマ 南スーダン：日本の国際平和協力の課題と展望</p> <p>② 授業概要 ・ 教科書レポート 教科書終章「日本の国際平和協力の課題と展望」について、①要約、②最も共感した点とその理由、③最も共感できなかった点とその理由、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当教員の実務経験を踏まえて解説します。 ③ 予習 (120分) 教科書終章を読んでレポートを作成する。(A41枚) ④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。
14	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業テーマ 日本の国際平和協力の進むべき道 (研究) ② 授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究 日本の国際平和協力の進むべき道、①進むべき道及びその理由、②進むべき道を実現するための方策、③進むべき道を実現する上での課題及び課題を解決する方策、を見出せるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 次回の授業中にコメントします。 ・ 必要に応じて担当教員の実務経験を踏まえて助言します。 ③ 予習 (120分) 教科書全体を振り返り、日本の国際平和協力の進むべき道を考察する。 ④ 復習 (120分) 考察が不十分な部分を更に考察する。
15	<ul style="list-style-type: none"> ① 授業テーマ 日本の国際平和協力の進むべき道 (発表) ② 授業概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究 日本の国際平和協力の進むべき道、①進むべき道及びその理由、②進むべき道を実現するための方策、③進むべき道を実現する上での課題及び課題を解決する方策、を説明できるようになる。(DP1、DP2、DP3) ・ (フィードバック方法) 授業中に発表についてコメントします。 ・ 担当教員の実務経験を踏まえて助言します。 ③ 予習 (120分) 日本の国際平和協力の進むべき道を考察し、発表資料を作成する。 ④ 復習 (120分) 授業の内容を再確認する。
関連科目	なし
教科書	■上杉勇司/藤重博美編著『国際平和協力入門』ミネルヴァ書房、2018年5月15日。
参考書・参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■篠田英朗『平和構築入門』ちくま書房、2013年10月10日。 ■本多倫彬『平和構築の模索』内外出版、2017年9月29日。 ■上杉勇司等編『世界に向けたオールジャパン：平和構築・人道支援・災害救援の新しいかたち』内外出版、2016年3月31日。 ■防衛省『令和5年版防衛白書 日本の防衛』日経印刷、2023年8月31日。
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 金曜日昼休み。それ以外の時間については研究室で対応します。なお、研究室に不在の場合もあるので、事前にメール等でアポイントメントを取ることをお勧めします。
研究比率	<ul style="list-style-type: none"> ■危機管理領域との対応 災害マネジメント5%：グローバルセキュリティ95% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

